

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report !?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第14(2004. 5. 6)

タイ研修レポート 2

NACC 栗坪千明

シリーズ第2弾の今回はパーンミニットマイ(カトリック系施設)です。

開設して8年、今までに400人くらいの利用者があった。現在、利用者数は女性が4人、男性が10人で共同生活をしており、カトリック系施設らしく毎日ミサが行われていた。

覚醒剤(タイ語で「ヤーバー」)が主だった薬物であったが、最近タイ政府の麻薬撲滅運動の影響で減ったが、他のアルコールなどの依存者が増えている。

この施設では特に解毒などはせず、最初の7日間は休息をする。少しずつ施設内での作業に参加する。作業の頻度の増加速度は非常に緩やかなものである。

社会性を養うため、一日4時間程度の作業を週5日行なう。

入寮期間は個人によって異なるが、少なくとも1年。入寮期間中の半年が過ぎた頃、スタッフと共に家に2日間滞在し戻る。それを何度か繰り返し、一人で家で過ごす課題を与え訓練をし戻っていく。

やはり、規定の期間を終了し出て行くよりも、終了せずに出て行った者のほうが格段に再発率は高くなる。

施設内には畑があり、入寮者はそこで自分たちの食べる野菜などを作る。その他、鶏の世話などをする。

入寮費は1ヵ月1,500~2,000 バーツ (4,500 円~6000 円程度)。これは物価が安いのと支援体制が整っているからである。

作業療法が中心で特にミーティングのようなものはなく、ミサを行なっている。キリスト教の教義のとおり信仰心によって回復していくというスタイル。そして日常のフェローシップ。

日本では特に決まった宗教によって回復するというものではなく、12ス

テップによるのだという話をしたら、ピンとこない様子が覗えた。

スタッフが利用者に与えるもの、利用者がスタッフに与えるものを大事にお互いに回復していくことを目指す。

依存に陥った人にしか理解できないという観点から、基本的に回復者がスタッフであり、若干名ボランティアのスタッフがいる。

入寮中の物理療法（他の薬）は一切使わず、通院もしない。

家族プログラムは特になく機会をとらえてのアドバイスのみに留めている。家族形態の違いからか突き放すという概念はないが、セルフエスティーム（自尊心）の欠如は重く考えているようであった。全体的に家族関係が日本よりもシンプルな感じがした。



←このディレクターの話、日本にとっても関心を持っている様子



歓迎の歌を利用者達が歌ってくれた。

↓利用者の宿泊施設



↓利用者の作っている畑



ミサを行う建物



誰がために

トッチー

私が覚せい剤と出会ってから7年になります。

その間、転職を3度しましたが仕事はしていたし家庭も持っていました。新築の一戸建てを買い、車にも乗り、会社でもそれなりに出世をし、一昨年の六月には娘も生まれて外見だけ見ると幸せな家庭に見えていたと思います。その為の努力だけはずっと続けていましたから。

最初の頃は薬をうまく使えていました。自分でコントロール出来ていたし必要以上に薬に頼ることもなく、シャブ仲間と会う時や仕事で夜中も眠れない時など1ヶ月～2ヶ月に1回程度の付き合いでした。

それがいつの頃から変わってしまいました。悲しいとき、寂しいとき、怒っている時など自分の心に隙間が出来たときに、そのすべてを埋めてくれる万能薬として使うようになり、すぐに自分にとってなくてはならない物になっていました。

それから先はずっと闘いでした。薬代が足らずに借金を作り、妻にも本当のことが言えず溝が出来てお互いに不信感を強めていきました。仕事にも集中出来なくなり、このままでは全てを失ってしまうと思い何度も自分の力で薬を止めようとしてきました。

半年であったり、3年であったり、一定の期間は止まりましたが必ず再使用してしまっていました。そのキッカケはいつも他愛のない事で昔の仲間と偶然会ったり、新しく出来た友達が薬を使っていたり…そんな時なぜか自分は殆んど何の抵抗もなく薬を使いました。それまでに自分がどれほど辛い思いをしたか、自分の周りの人をどれほど心配させたのかを振り返る余裕もなかったんです。それに一生止められる自信もなかったし正直言うと止めようとも思っていないでました。

そんな事を繰り返しているうちに遂に去年の12月1日に離婚する事になり同時にダルクに入寮しました。

当初は失った家族の為、両親の為、今まで迷惑や心配を掛けた人達の為出来るだけ早く回復して社会復帰しようと3ヶ月間自分なりに精一杯努力して途中退寮しました。それでも結局は1週間で自分の無力さを知り戻って来たんです。



「何が足りなかったのか」をずっと考えてみて今は少しですが分かった気がします。

まず第一に自分の為に、これからの人生の為に回復しないといけないし、それには当然時間が必要なんだと分かりました。

今は色々な部分で割り切って大切な仲間と毎日楽しく生活しています。

薬を使い始める前に戻るのではなく少しでも人間的に成長して、いつか社会復帰出来るように、ゆっくりと時間をかけて回復と成長をしていきたいと思っています。



支援会員募集のお知らせ

昨今、社会問題の一つとして若年層者の薬物使用の増加が叫ばれています。薬を止められなくなってしまった人達の回復の場として、那須ケアセンターは薬物乱用防止の一役割を担っていると自負しております。

しかし、いまだ補助制度の利用が出来ない状態なので、皆様のご協力が必要です。ぜひ支援会員となって薬物依存者の回復にご協力下さい。

年会費一口五千元より ※別紙払込表でお申し込みお願いします。
また、現在施設維持費及び整備費が不足しており運営が軌道に乗るまでの間皆様の末永い支援をお願いいたします。

週間プログラム

日	土	金	木	水	火	月	曜日 時間
● セルフケア	起床 7:20 ・ 朝食 7:30						
	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ● ミーティング スタッフ ミーティング	午前(九時～十時半)
	作業班・調理班の仕事・昼食 等						
● セルフケア	● セルフケア	● オキユベイシヨナル プログラム (山林作業・パソコン)	● ● ステップミーティング コン・ゲーム	● ● スポーツプログラム (那須のC・スキー・スノボ)	● ● ハウス ミーティング 洗車	● ● ハウス ミーティング 洗車	午後(一時半～三時)
夕 食							
● 須賀川カトリック教会 (第一日曜日)	● センター	● 大田原カトリック教会	● センター	● 那須カトリック教会	● カトリック白河教会	● ● 松が峰カトリック教会 (宇都宮) 郡山細沼教会	NAミーティング
就 寝 23:30							



南湖公園にてシラフで花見

献金、検品を下された方々

長谷川和則様、水井清次様、長田康司様、佐藤忠雄様、山口武様
五味渕玲子様、森田展彰様、柴田豊助様、飯島博様、工藤和明様
太田剛様、福田澄夫様、青木けい子様、ダックスとちぎ様
那須ケアセンターを支援する家族会様、和高優紀様
田口清様、鈴木淑子様、 匿名 5 名様



四月二日に会員の皆さんとほだ木の菌打ちをさせていただきました。当日の朝はあいにく雨が降っており、このままでは中止かと思いきや始まる五分前に雨は上がり太陽が顔を出し盛況の内に作業を終了する事が出来ました。(これもハイヤーパワーかな?)
会員の皆さん本当にありがとうございました。

那須アディクションケアセンター 一同



D.A.R.C 那須アディクションケアセンター

〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>